

8/31  
AT

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—43984

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 26 B 21/18

識別記号

庁内整理番号  
7041—3C

⑭ 公開 昭和56年(1981)4月22日

発明の教 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑮ 往復安全剃刀

⑯ 発明者 林三鶴

川崎市高津区向ヶ丘921の4

⑰ 特 願 昭54—119012

⑱ 出 願 人 林三鶴

⑲ 出 願 昭54(1979)9月17日

川崎市高津区向ヶ丘921の4

# 明 細 書

1. 発明の名称 往復安全剃刀

2. 特許請求の範囲

前刀を前進方向に、後刀を後進方向に、且つ、前刀と後刀で構成する角度は180°以下で、刀先を下方に向けた、往復安全剃刀。

3. 発明の詳確な説明

本発明は、前方向と、後方向に、刀を抜けて、前進（引く）、後進（押す）共に、毛が剃れる、往復動作の安全剃刀に関する。

従来は、前進（引く）のときのみ、毛が剃れるが、後進（押す）は毛を剃る事が出来ず、非常に非能率であり、又、逆剃りをする場合は、その程度、安全剃刀を、持直し、特別に「逆剃り」を行なう必要があつて非常に不便であつた。

本発明は、この欠点を除去、前後進共、毛が剃れて、安全剃刀を、持替える事なく、自動的に、逆剃りも出来る往復方式の安全剃刀を提供するのである。

本発明の実施例を同図によって説明すると、部

1図は本発明の部1実施例であつて、ベース1は、前部と後部に、各々剃刀の刀が、皮膚の切傷を防ぐための嵌片2、2と、その内側に、剃った毛を排出する部3、3及び中央に縦お道V字形の凹部4を設ける。その凹部4の前面に前刀5を、後面に後刀6を、押え具7で、ネジ（ネジで締付ける）、ボネ（例えばバネのボネを）部をベース1に固定して、凹部との間に、押え具7と前後刀5、6と共に、又は前後刀5、6のみをさし込む、吸引力（ベース1又は押え具7に、又は両者に設けて吸引力の吸引力で、前後刀5、6を吸引する）等により取付け、ベース1の中央上部に把手8を設けたものである。

本発明を使用するには、従来の如く、石鹸液等を皮膚に塗布、前刀5と、後刀6を皮膚に均等に押し出で、把手8にて、前後刀5、6と直角方向に、前進（引く）及後進（押す）を繰返すと、前進は前刀5にて、後進は後刀6にて、それぞれ毛を剃る事が出来る。

嵌片2、2は、前後刀5、6の皮膚への嵌り

みを防止しているもので、切傷する事なく安全であり、剃った毛は、それぞれ図3、3より排出されるので、円滑な剃剃り等が出来る。

第3図は第2実施例であつて、把手8の代りに、図型の柄9をベース1の中央上部に取付け、柄9にて往復操作して、毛剃りするものである。

第4図は第3実施例であつて、把手8の代りに、突片10を設けて、人差し指と中指等の間に挟み、手で皮膚(顔)を張るが如く往復運動をして毛を剃ることが出来る。

尚、突片10を指間に適合するよう図の如くY字型にすると安定した保持が出来る。

第5図は本発明の第4実施例であつて、案内片2、2の外側に、スポンジ、毛野の保護体11を設け、把手8の代りに、把手兼容器12を、ベース1の中央上部に設け、容器12の1部に孔を設けて、保護体11に直置又はパイプ等を介して接続して、容器12に石鹼液等を充填すれば、液は保護体11を潤すので本発明の往復安全剃刀を使用すると皮膚に自動的に石鹼液等が塗られる。

- 3 -

〇、従来は逆剃りするにはその都度、安全剃刀を持替える必要があつたが、本発明の往復安全剃刀は、その必要はなく、常に液流時は、自動的に逆剃りが行なわれているので、過流にきれいに、毛剃りが出来るので、前記1項に加えて高効率となる。

ハ、第3図の第2実施例を除いて、把手8又は把手8に相当する突片10容器12ライター13は、或る程度小型の方が操作は容易であり、又、前後刃5、6間の間隔が狭い程、効果的に毛が剃れる。従而、仕体として非常に小型、軽便であるので、常にポケットにしのばせて携帯が出来るので随時使用出来る。

ニ、第3図の第2実施例の柄9を取付けたものは、従来の使用感覚に馴れた者に何等違和感を感じる事なく従事的に使用出来る。

ホ、第4図の第3実施例では、指間に突片10を挟んで他指で皮膚を張るが如く往復操作するので、石鹼液等を高温なく皮膚にすり込み乍ら毛を剃るので、本発明の往復安全剃刀の切剃を向上させる

- 5 -

第6図は本発明の第5実施例であつて、把手8の代りに、把手兼ライター13とベース1の上部に取付けたものである。

尚、この場合、ライター13と容器12を併設して、前記第4実施例の如く保護体11を設けてもよい。

第7図は本発明の第6実施例であつて、把手8突片10及び把手を兼用する容器12、ライター13に、支軸14を設けて、ベース1を随時自在に取付けたものである。

第8図は本発明に使用する剃刀の刃の形状を示すものであつてAは片刃であつて前刃5、後刃6何れにも使用出来る。Bは両刃であつて、ベース1の逆V字形の凹部4に適合、又は、近似の形状に折曲げたものである。

本発明の往復安全剃刀の効果は下記の通りである。

イ、従来安全剃刀は、前進(引く)時のみで、後進(押す)時は毛が剃れなかつたが、本発明の往復安全剃刀は、前進、後進共に毛が剃れるので非常に高効率である。

- 4 -

のみか、剃上り状態が手前の放電で容易に同時にわかるので、優がなくとも、又、老眼及び視力障害者にも容易に使用出来る。

エ、第5図の第4実施例では、石鹼液等が自動的に塗布されるので厚々石鹼液等を塗る必要もなく、その都度、塗布されるので再三塗布する不便がない。又、常に潤滑出来るので耳中残余りを洗ばず又寸暇に剃剃りが出来る。

ト、第6図の第5実施例では把手8がライター12に直置してあるので本発明の往復安全剃刀を携帯すれば、ライターにも使用出来、又、従来剃剃りも出来る。

チ、第7図の第6実施例では、ベース1が把手8に対し固着自在であるので、ベース1に取付けられている前後刃5、6は皮膚の曲面、傾斜に対し常に順応して密着するので円滑且つ能率的である。

本発明の往復安全剃刀は、常に刃を前後各1枚使用するので第8図Aの片刃を使用する時は、切剃の落ちた刃を取替えればよいので経済的であり、

- 6 -

後刃6を張着しないと従来の式に変更出来る便利  
さがある。

図8図9の図は、取付けが1回で済みであり、  
又、ベースの凹所4の角度より若干大小のある場  
合は、取付けに際し、ねじ、バネ等で押え具7に  
て刃の弾性に従って圧すると、両刃の角度が凹所  
4の角度より大きい場合は両刃の角度はせめら  
れて凹所4の角度に近ずき、反対の場合は両刃の  
角度は広げられて、凹所4の角度に近づくので押  
え具7の例えば締めつけネジを加減すれば、使用  
者に適合した刃の角度を得ることが出来る。又、  
両刃の角度の弾性によりスプリングワッシャー的  
効果による安定した取付けが出来る。

ベース1の凹所4の角度に弾性を有する場合、  
例へば押え具7をネジ等で刃を締めつける場合、  
その締めつけの強弱によって、押え具7がベース  
1の凹所4を圧する刃の強弱に応じて、凹所4が  
開閉すると両刃も開閉するので使用者に適合した  
刃の角度を得る事が出来る。(この場合、押え具  
7の角度は凹所4より広角である。)

- 7 -

図1

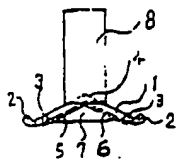


図2

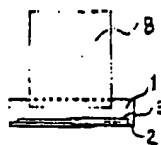


図3

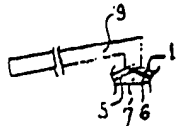


図4



図6



図5

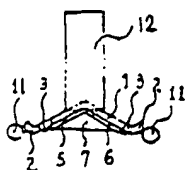


図8

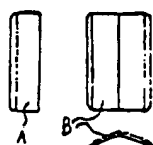
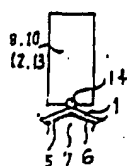


図7



#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の図1実施形態を示す側面図、  
第2図は同じく正面図、第3、4、5、6、7図  
は本発明のそれぞれ把手に相当する部分を示し、  
他は1部を省略した図2、3、4、5、6実施形  
態の側面図。

- 1 …… ベース、2 …… 案内片、3 …… 刃、  
4 …… 凹部、5 …… 前刃、6 …… 後刃、  
7 …… 押え具、8 …… 把手、9 …… 柄、  
10 …… 突片、11 …… 固定体、12 …… 突起、  
13 …… ライター、14 …… 支軸。

特許出願人 林 三 郎

- 8 -

#### 予 後 補 正 書 (方式)

昭和55年1月22日

特許庁長官 川 崎 誠 雄 様 宛 昭和55年1月22日 第119012号

1. 事件の提示  
昭和54年特許願 第119012号
2. 発明の名称  
往復安全剃刀
3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
郵便番号 213  
住所 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘  
菅生 221の4  
氏名 林 三 郎
4. 補正の対象  
(1) 願書の出願人の欄  
(2) 明細書の図面の簡単な説明の欄

5. 修正の内容

特開昭56-43984(4)

- (1) 別紙の通り
- (2) 明細書第8ページ6行目「側面図A」の次  
ぎに「図8はAは片刃の平面図、第8図は  
両刃の平面図と側面図である。」を追加する。